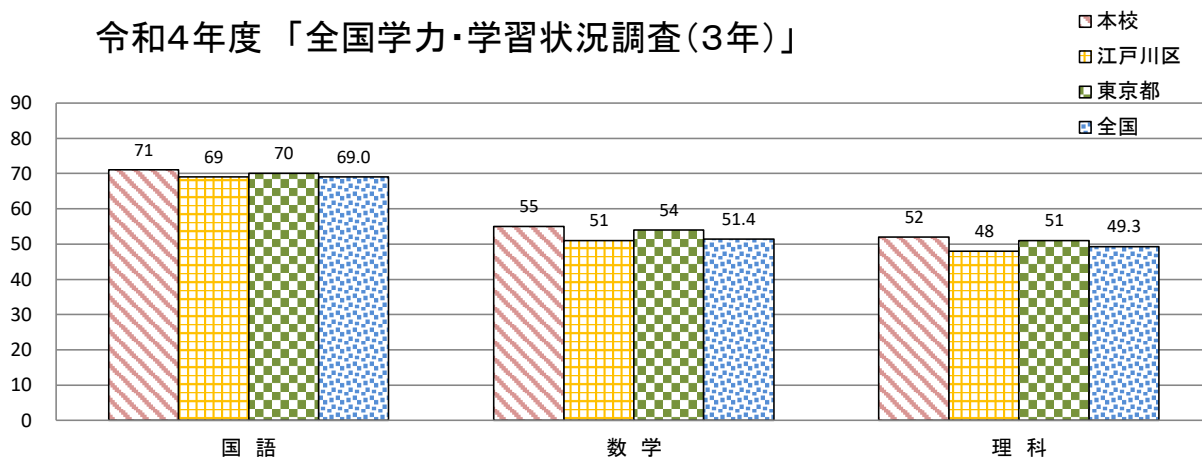


# 令和4年度「全国学力・学習状況調査(3年)」



※各学校ならびに江戸川区・東京都の全体正答率(%)については、文科省・江戸川区からは小数点以下の数値の公表はされていません

## 【各教科の結果・考察】

区分	知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			評価の観点別			国語全体
	言葉の特徴や使い方	情報の扱い方	我が国の言語文化	話す・聞く	書く	読む	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
本校	75.5	43.8	69.1	62.8	43.8	71.9	70.4	62.7	—	71
江戸川区	非	公	表	62.0	43.8	70.0	69.3	61.5	—	69
東京都	73.6	43.8	70.9	65.7	43.8	70.8	69.8	63.8	—	70
全国	72.2	46.5	70.2	63.9	46.5	67.9	69.0	62.3	—	69.0

【分析・考察ならびにそれをふまえた指導の重点】 領域別に見てみると「読む」は都の平均を上回ったが、「話す・聞く」は都の平均を下回った。「我が国の言語文化(知識及び技能)」については国・都の平均を下回ったものの、国語科全体としては国・都の平均を上回った。特に「行書の特徴の理解」については2年時に学習した時点では概ね理解できていたが、今回正答率が最も低い結果となってしまった。一度習っても授業で繰り返し触れられないものについてはその定着に課題があると思われる。今後は言語知識の理解・定着を図るため、授業の中で小テストなどを実施し、繰り返し学習することで既習事項の理解を深めさせ、定着させていきたい。

区分	領域別				評価の観点別			数学全体
	数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
本校	59.0	48.6	45.8	63.9	61.6	43.1	—	55
江戸川区	55.5	43.6	43.0	57.3	58.9	36.0	—	51
東京都	59.5	47.6	47.1	59.5	62.4	39.7	—	54
全国	57.4	43.6	43.6	57.1	59.9	36.2	—	51.4

【分析・考察ならびにそれをふまえた指導の重点】 数学科全体としては国・都の平均を上回った。領域別でみる「データの活用」「図形」などの具体的・操作的な事象を取り扱うことに関しては正答率は高かったが、「関数」についてはやや低い結果となってしまった。また、「証明・説明を求められる問題」についても無回答率が高く課題が見られた。今後は比例・反比例・一次関数など既習の関数を再度復習し、関数そのものについての理解を深め、関数の式やグラフに関する処理・操作にも習熟させていきたい。証明・説明については基本的なものから小段階を追って慣れさせ、最初から諦めさせることなく取り組ませていきたい。

区分	領域別				評価の観点別			理科全体
	エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
本校	43.9	53.8	61.7	46.9	47.0	54.4	—	52
江戸川区	41.0	50.0	56.5	43.0	44.7	49.9	—	48
東京都	42.8	51.8	60.1	44.9	46.9	52.3	—	51
全国	41.9	50.9	57.9	44.3	46.1	51.0	—	49.3

【分析・考察ならびにそれをふまえた指導の重点】 理科全体としては国・都の平均を上回った。領域別で見ると「エネルギー」「地球」に関する習熟度が低いので、既習事項を復習しながら、定着を図っていききたい。また、「考察の妥当性を判断する」内容や、「グラフや図から必要な情報を読み取る」内容、「未知のもの」と既知のものを比較する内容についても正答率が低く、課題がみられる。実験に取り組ませる際も、自身の立てた予想に対して、既習事項を活用した理由の説明などを通して結果の考察ができるようにさせていきたい。